

はじめよう 協働のまちづくり

No.8

みんなの力で「迎え火」復活！ ロマンティックお盆TSURUGATA ゆらゆらと揺れるあかりに酔いしれました…。

鶴形地域では、約50年前まで8月6日になると子どもたちが海蔵寺に行ってろうそくをもらい、灯ろうにあかりをともしながら自宅に帰るという行事『迎え火』が行われていました。この灯ろうを頼りに、先祖の霊が迷子にならず各家々に帰ってきます。

鶴形地域まちづくり協議会歴史部会では、今年この迎え火を復活させることにしました。

●100本の灯ろうにあかりがともる

歴史部会では、迎え火を復活させるに当たり、さまざまな事を話し合いました。

復活最初の今年は、8月6日に灯ろうを各家々の玄関先に設置して通りを灯ろうで飾ることにしました。そして、木材や和紙など灯ろうづくりに欠かせない材料をワンセットにし、希望する世帯に配ったほか、灯ろうの絵は灯ろう絵の名人を地域から探し、絵描きの講習会を開催しました。

そして迎え火当日、鶴形街道や小路に設置された約100本の灯ろうにあかりがともると、幻想的な光景が生まれました。灯ろうのあかりが地域内をやさしく包む中、夜の散歩を多くの人を楽しみました。



まちかど

ウォッシュング

8月1日(月) けやき公園七夕まつり

けやき公園は、美しい七夕ばやしの音色に包まれていました。



いつも元気



柳町YOSAKOI大会

のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

76

戦士(二) 「赤坂・慰霊之碑」

赤坂の部落の中を通る道路に面して、一基の慰霊碑が建っています。昭和二十年七月二十七日の真昼時に部落の西方の山地に激突した海軍機に乗っていた兵士二十七人のなかで、十六人が戦死しました。その人たちの霊を慰めるために生き残った人々が建てたものです。墜落現場には石柱も建っています。

この海軍機は特命を受けて兵員を移動する最中でした。調子が万全でないダグラス輸送機を飛ばして鈴鹿(三重県)の基地をたちました。最初から左右のエンジンの回転に落差が大きく、途中小松基地に着陸して整備しました。それでも調子は回復せず、八郎潟の上空に差し掛かったときは、せめて東雲飛行場までと思いながら低空飛行を続けましたが、その直前で中沢の山中に激突しました。幸い一命を取り留めた負傷者は、能代病院の医者が手当てをしました。亡くなった人々へは浄明寺の住職がお経を唱えて供養し、もちろん地元の人々は救出作業や、機体の残骸を片付けるなど懸命の作業をしました。

昭和四十七年に、慰霊碑が建てられ、命日には赤坂自治会の皆さんの世話で、生存者を中心に慰霊祭が行われます。(古内)



100

100%再生紙を使用しています。

環境にやさしい大豆油インキを使用しています。